

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

| | |
|-----------|-------------------------|
| 学校名・団体名 | 新潟県下越教師学研究会 |
| コース | 団体研究コース |
| 活動・研究のテーマ | 郷土愛と共創力を育むデジタル・アーカイブの活用 |

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1、活動に至る経緯

本研究会は、新潟県の下越地方にある小・中学校の教員と教育行政職員（校長籍）が構成会員である。これまで、講話や演習を中心とする教員研修を行ったり、道徳科を軸に研修用コンテンツを作成したりしてきた。過去には、小学校と公共図書館、理科教育センター、自然科学館とをテレビ会議システムで繋ぎ、遠隔授業を行ってきた経緯がある。昨年度は、会員が所属する小学校と、北海道や沖縄の小学校との遠隔交流学习を実施した

会員が以前に在籍した新潟県立生涯学習推進センターの支援も受けながら、下越地方の建造物や名所、特産品などの歴史的な写真をデジタル化した。現在は、デジタル・アーカイブとして社会科や総合的な学習の時間等の授業に役立てている。新潟大学が開発した「にいがた地域映像アーカイブ・データベース」も、一人一台のタブレット端末利用の個別最適化授業や探究学習、家庭学習に利用を試みている。

2、活動・研究の目的(ねらい)

本活動・研究の目的（ねらい）は、次の3点である。

- 1)本会の教員とともに高学年児童が協働して、小学校第4学年、第5学年の社会科や総合的な学習の時間の授業で活用できるデジタル・コンテンツを整備したり、新規に開発したりして、デジタル・アーカイブを構築すること。
- 2)整備・構築したデジタル・アーカイブを、小学校第4学年及び第5学年の社会科や総合的な学習の時間で活用する授業を実施し、児童の郷土愛や共創力を育むこと。
- 3)デジタル・アーカイブを構築したり、活用したりする実践を通して、教員のICT活用指導力をさらに向上させること。



3、活動内容

今年度の本研究会の活動内容は、主に次の3つのプロジェクトからなる。

(1) デジタル・アーカイブ開発プロジェクト「教材研究・制作」(活動時期：2023年5月～8月)

①地域映像のデジタル化

昭和30年代の学校や木造の橋・川舟、山での作業の様子等の写真をデジタル化する。由緒ある建造物や豊かな自然風景を、アクセスが容易なデジタル・コンテンツとする。



②デジタル画像のリンク集の作成

地元企業が配信している伝統的特産品のデジタル写真をリンク集にする。事前に許諾を得たり、留意点を協議したりすることによって、教員や児童も著作権・肖像権等について学ぶことができる。

③デジタル・アーカイブのリスト化

会員に全国視聴覚連盟の専門委員会が所属している利点を活かし、全国各地の視聴覚教育センター・ライブラリーがインターネット上に配信している動画・静止画情報を収集し、リスト化する。また、新潟大学が開発した、インターネット上で検索できる地域映像アーカイブ・データベースも、事前に教材研究の一環として教員が閲覧し、動画・静止画を授業単元に位置付ける。

(2) デジタル・アーカイブ活用プロジェクトⅠ「教員研修」(活動時期：2023年8月～12月)

① 公開授業のアーカイブ化

会員が実践した公開授業を録画する。所属長や保護者の了承を得た録画授業をアーカイブ化する。限定配信し、会員が視聴し自己研修や協働研修をした。研修では、研究図書で購入したテキストも活用した。研修形態を創意工夫して組み合わせることで、会員の授業力向上に寄与した。

② 教員相互のメンタリングの実施

会員の公開授業を全天球(360°)カメラで録画する。自由視点映像(VR映像)を、教員研修のデジタル・ツールとして活用した。その際、ベテラン教師がメンター役となる、会員校の初任者研修などにも活かした。On the job形式のメンタリングは、自己課題解決型の研修に有効に機能した。

③ オンライン研修会の開催

対面の研修会だけではなく、システムや付随する情報機器を活用して、オンライン研修会を開催した。距離的な制約を解消しながら、同期型の研修や情報交換をすることができた。研修内容を、オンデマンドで配信し、非同期型にすることによって、時間的な制約も緩和することができた。

(3) デジタル・アーカイブ活用プロジェクトⅡ「授業改善」 [活動時期：2023年5月～2024年3月]

会員のデジタル・アーカイブ活用プロジェクトⅡの中から、代表的な実践について述べる。

① 郷土愛の育成を目指した授業単元の実施と評価

○ 小学校第4学年の総合的な学習の時間「トゲソと水の環境について知ろう・考えよう」単元において、メディア活用学習と体験学習を組み合わせた授業を実施した。清流のシンボルである「トゲソ(イバラトミヨ)を守るために、水をテーマに学習を展開した。探究場面では、デジタル・コンテンツといった映像・情報メディア、本や図鑑、参考書といった児童用図書の活字メディア、あがのがわ環境学舎の専門家といった人的メディアをミックスしながら、個別学習や協働学習を行った。表現場面では、児童が共創しながら、「わたしたちができること」として、広報用のパンフレットを印刷したり、デジタル・リーフレットを作成したりした。単元授業において、地域の自然を見直したり行動化について協議したりする活動を通して、郷土愛も育むことができた。

② 共創力の育成を目指した授業単元の実施と評価

○ 小学校第4学年の社会科「自然災害にそなえるまちづくり」単元において、デジタル・アーカイブを活用した。単元前半においては、「にいがた地域映像アーカイブ・データベース」内にある『校舎よさようなら(新潟市視聴覚ライブラリー)』と『8月水害(加茂市中央公民館)』を一斉視聴した。前者は、新潟地震、後者は加茂川水害を扱った地域映像作品である。単元後半においては、「せんだい教材映像アーカイブ」内にある『大切な命を守るために』を一斉視聴した。東日本大震災に関する自作教材である。デジタル・アーカイブの活用を通して、児童は、自助・共助・公助について主体的に学習し、災害に備えるための共創力の基盤を醸成することができた。

○ 小学校第5学年の社会科「未来につながる工業生産」単元と「未来とつながる情報」単元において、オンライン学習を行った。前者は自動車工場、後者は放送局と繋ぎ、リモート授業を実施した。授業の前後では、工場や放送局特有のデジタル・コンテンツを視聴し、児童は新しい知識を獲得し、思考する楽しさを実感した。単元学習を通して、未来の車を構想したり、将来の高度情報社会を探究したりする。映像で感性を磨き、知恵を学びながら、自然環境や多様な他者と共創する重要性を認識した。

4. 子どもたちへの効果(成果・課題)

(1) 研究の成果

① ラーニング・コミュニティによる児童の郷土愛や共創力の育成

会員校同士が繋がり、学習共同体をネットワーク上に構築した。デジタル・アーカイブの活用や学校間交流、さらには専門家からの支援など協働的な学びを通して、児童に郷土愛や共創力を育むことができた。レガシーともいえる地域映像が児童の情意に訴え、比較・関係思考を伸長することも分かった。

② デジタル・アーカイブの活用による児童のメディア・リテラシーの向上

デジタル・アーカイブを閲覧することによって、熟慮的思考といった受け手としてのメディア・リテラシーも学ぶことができた。映像表現の仕組みや方法を活かして、学習成果のアウトプットとなるデジタル・リーフレットを作成する活動を通して、送り手としてのメディア・リテラシー向上につながった。



(2) 今後の課題

① 他教科への展開

本活動を通して、全国各地には貴重で有用なデジタル・アーカイブがあることが分かった。国語や理科といった他教科においても活用することによって、児童・生徒の資質・能力の向上を図っていきたい。

② 本研究の進展

本研究の成果を、学会の年次大会で発表することができた。成果を内外に広めるとともに、研究者の方々からの指導・助言を会員間で活かすことで、今後の研究のブラッシュアップにつなげていきたい。